

## 児童生徒の「主体的な学び」を促す授業実践

### 1 基本情報

◇各教科等 作業学習

◇学部・学年 中学部 第3学年 重複障害 I (2名)

◇単元名 製品づくり

◇単元の目標 ○職業生活に必要な基礎的な知識と技術をもとにした、実践的な態度を身に付ける。

○作業に必要な基本的な動作を活用する。

○作業に必要なやりとりする力を身に付け活用する。

◇付けたい力 ・準備、片付けを含めた作業手順を理解し、製品を完成させることができる。

・作業の区切り目で報告をすることができる。

◇本時の目標 ・活動の流れ（準備→製品づくり→片付け）に沿って、時間内に小物入れを完成させることができる。（牛乳パックを使用した小物入れ）

・準備や制作など作業の区切り目で報告することができる。

◇生徒の実態 本学級は知的障害と身体障害、聴覚障害を併せ有する重複障害の生徒1名、知的障害と身体障害を併せ有する生徒1名の計2名で編制している。2名とも、準備された教材を見たり、板書で大まかな内容を確認したりして、興味を持ちながら活動を進めることができおり、小物入れの制作手順はほぼ獲得できている。また、準備や片付けについても自主的に行う場面が見られるようになってきている。

### 2 期待する児童生徒の姿

作業の工程を理解して、時間に見通しを持ちながら製品を完成させることができる。

作業の区切り目で報告をしたり、必要な援助を自ら求めたりすることができる。

### 3 指導者が捉えた児童生徒の「主体的な学び」

作業学習ではこれまで、文化祭の販売に向け小物入れの制作に取り組んできた。そのため、制作の手順はおおむね理解し習得できている。内側と底の布と牛乳パックをセットしておく支援ボードを使用させることにより、手順に見通しを持ちながら作成していた。また、準備や片付けについても、それぞれの内容を提示しておくことで個々に確認しながら行うことができていた。目標に設定した報告については、作業工程の中でそのポイントをカードで提示しておいたので、生徒はそれを確認し自ら報告することができていた。また目標カードから選んだ個々の目標についても、「ボンドを隅まで塗りのばす」に対し自ら塗り残し部分を指さす等主体的に取り組む場面が見られた。これらは今後の作業活動に向け、時間いっぱい取り組むことや報告、援助の要請等実践的な態度を身に付けることにつながると考える。